

イチゴでアザミウマ類の発生が多くなっています。
施設内をよく観察し、アザミウマ類が発生している場合は、
速やかに防除を実施してください。

アザミウマ類は高温・乾燥条件を好み、イチゴの開花期以降に発生が増加します。花に多く寄生し、加害による花の不稔や果実の褐変など、収量や品質に影響を及ぼします。圃場内のイチゴの花をよく観察して早期発見に努め、花や果実に被害が出る前に対策をとることが重要です。

【現在の状況】

11月下旬現在、イチゴにおけるアザミウマ類の寄生花率(本年値0.8%、過去8年平均値0.1%)、発生地点率(本年値40%、過去8年平均値4%)ともに平年より高い(図1、2)。

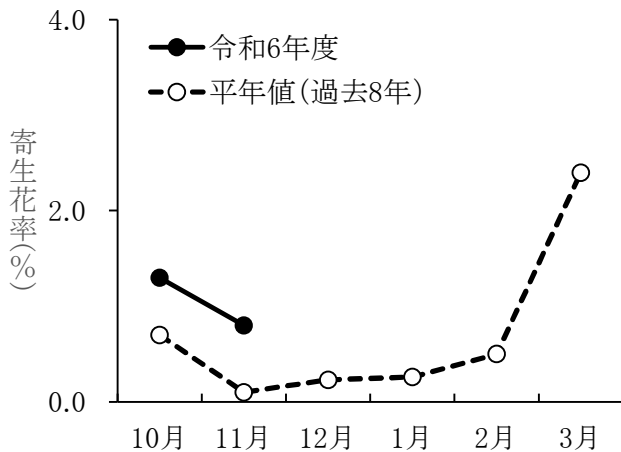


図1 アザミウマ類の寄生花率の推移

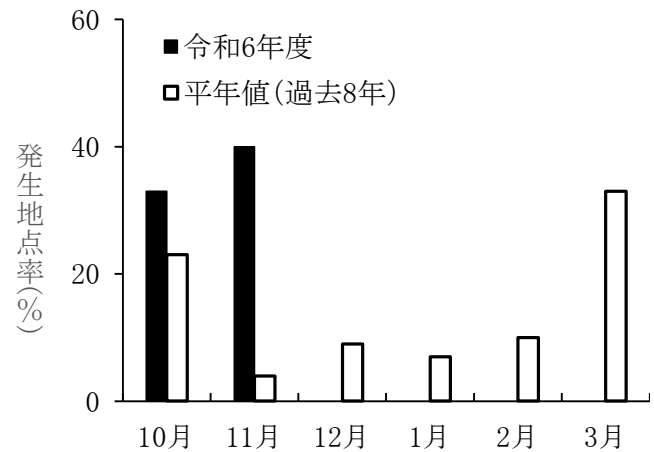


図2 アザミウマ類の発生地点率の推移

【防除対策】

- ① アザミウマ類は増殖が速いので、イチゴの花をよく観察し、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② アザミウマ類発生前から青色粘着トラップを10a当たり100~400枚程度設置すると密度低減に有効である。
- ③ 薬剤散布は、アザミウマ類の寄生部位である花にかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、次ページの表を参考にIRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

表 イチゴのアザミウマ類に登録がある主な散布剤

(令和6年11月13日現在)

IRAC コード ¹⁾	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	ミツバチに対す る影響目安 ²⁾
4A	モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	1日
5	ディアナSC	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	3日
15	マッチ乳剤	1000～2000倍	収穫前日まで	4回以内	1日
23	モベントフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内	1日
30	グレーシア乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	1日
34	ファインセーブフロアブル ³⁾	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	1日
UN	プレオフロアブル	1000倍	収穫前日まで	4回以内	1日

1) 殺虫剤抵抗性対策委員会(IRAC)により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。

2) 散布後、ミツバチを放飼できるまでの日数。各農薬メーカーに確認し取りまとめたもの(令和6年11月現在)。

3) ヒラズハナアザミウマに対しては他のアザミウマ類と比較して防除効果がやや劣るので注意する。

[注意事項]

- ・農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載されている使用基準や、注意事項を必ず確認のうえ使用する。